

常光春子さんが60歳で、生まれて初めて書いた自分の名前、その感動。

「字を書く」ことは、感動を生み、未来を切り拓き、幸せな生活をつくっていく。

書くことのすすめ

教師にとっても、子どもにとっても「書くこと」は、とても大切な学習です。

→なぜなら「書くこと」によって、自分自身を振り返ることができるからです。
振り返るからこそ、成長があり、伸びていくのです。・・・しかし、そうは言っても

→「書くこと」は子どもにとっても教師にとっても、なかなか手強いものです。

1. 子どもが書く・・・「書いてみたいな」 そう思わず作文指導の工夫あれこれ

- ・「え、また書くの?」「書くことがない」「半分でもいい?」「作文きらい!」からの脱却
- ・思わず書きたくなる工夫を これなら書けそうだ
[したこと作文]・・・灰谷健次郎「兎の眼」より足立先生の授業、小谷先生の授業
[先生あのね][見たこと帳][先生に言いたいこと][30 日日記][白い紙のなぞ]
用紙の工夫をする。小さい紙、太い罫線、半分のノート
- ・書いたら、必ず紹介する。みんなの前で読む。学級通信に書く。文集にする。
- ・上手く書けた、たくさん書けたという経験を積む
ほめられる、認められる（ほめるコツは、全体ではなくこの部分がいいとほめる）
原稿用紙30枚へ挑戦・・・自分が作者の[修学旅行物語]を書き上げた自信
- ・テクニックから感動体験へ 心が動けば、自分で書き出すもの
- ・兵庫の教育者 灰谷健次郎 東井義雄 戸田唯巳 何度も読み返したい本

2. 先生も書く・・・書くことで先生は成長する

- ・学年だより、学級通信を書く。「ユーモアと子どもの姿が入っているといいな」
→書くことで、自分を、子どもを振り返るきっかけとしたい。文字や言葉によるフィードバックは子どもに自信を持たすことができる。いい言葉や感動の出来事を残していく作業は楽しいもの。教師も子どもも元気が出てくる。
- ・連絡帳に書く。参観や懇談の翌日は「ありがとうございました」の一言を書く。
- ・子どもの記録をつける習慣。気づいたときにすぐに書かないと忘れてしまう。
- ・研究授業をして指導案を書く。しっかり指導案を書くことで、授業力はアップする。
- ・実践記録も書いてみる。「文字に残す」取り組みを。そして、どこかで発表を!

※ 6月例会は日程/場所の変更です。 6月14日(土) 14:30~17:00

「楽しく元気にランランRUN ~こんな指導で子どもは変わる~」

評判のプロコーチによる「走」の実技研修です。(講師:三浦誠司さん)

集合はJR環状線:森ノ宮駅 14:30 出口前で点呼をとり、徒歩5分の専門店「ランウォークスタイル」の更衣室で着替え、そのあと大阪城公園で実技研修です。体操服・運動靴持参。小雨でも実施します。大雨の場合は部屋で講義。

★ランウォークスタイル(大阪市中央区森ノ宮 1-3-1 tel 06-6941-8560)